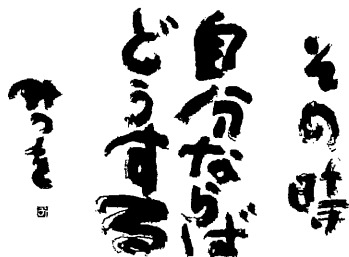


さくら第470号

平成31年2月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7:TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『上達に近道なし』

「先生、そろばんがうまくなる方法は何ですか？」と聞かれることがよくあります。そこで「練習することです！」と答えます。

「なんだ、そんなことか。いい方法があると思ったのに。やっぱり練習せんとダメか」と、ひとり事のようにつぶやきます。

練習するにもいろいろなやり方があり、ただ何となく指を動かして計算する数が増えても、うまくなりません。目的をしっかり持って、自分で考えながら練習することが大事です。

席に着くと、「先生、今日は何をするんですか」と聞く人がいます。その日に練習する内容は皆さんが席に着くと言いますが、随時制なので学校の授業のようにチャイムがあつたり、同じ時間に同じ内容の学習はありません。それぞれ自分の級や段位にそった練習を自分から始めることが大事です。

そのために、問題集や前に使ったプリントなどがカバンに入っています。何かを言われるまで何もせず、ぼんやりしたり、周りの人と小声で話しては、うまくなりません。

練習する時には、その種目について自分がよくミスすることを思い返しなが、同じミスを何度も繰り返さないことです。12-4が6になる人がよくいます。7×6=48と言う人もいます。みとり算や伝票算では3桁ごとに書く「コンマ」を1級になってもあとからつけずに、書きながら前から順番につけていくことが大事です。

計算を終えてからコンマを書くと、答えの最後の数字が「0」の時、よく書き忘れるのです。

作問規定により、見取り算10題のなかには必ず1題はそういうのがあります。ミスを防ぐやり方を自分でしっかり意識することです。もうずいぶん昔になりますが、珠算能力1級の試験でコンマを1つ付け忘れ、満点合格にならなかった女子高校生がいました。

当時の1級から3級までの検定試験は、かけ算・わり算・みとり算・みとり暗算・伝票算があり各種目別々に計っていました。たった1つのコンマの書き忘れが今なお悔やまれます。

平成13年度の検定試験から今のような3種目を一緒に30分間計り、1級～3級は合計240点以上で合格となるので、自分の得意かそうでないかを調整できる利点もあります。

しかしながら30分間、7級以下は20分間を集中させるためには、ふだんの練習で養うしかありません。お腹がへれば何かを口にするすぐに満腹になるような都合のよい問題はありません。ひたすら練習あるのみ。

何事にも準備という動作があります。エンピツは5本きれいにけずっておくことです。2Bを使う人がおり、すぐに芯がなくなり、エンピツの先はまん丸であり、9の0の所がつぶれて1に見えます。削るよう何度言っても馬耳東風。

級や段位がアップする人は、教室に入るとすぐにそろばんときれいに削ったエンピツを出し、指慣らしを始めます。キョロキョロしません。大事なことは、根気よくあきらめずに、できるまでやり続けることです。

そろばんの練習を見ていて思うことがあります。それは、大人になって仕事をする時の心構えです。いつも自分の努力目標をもち、どうすればうまくできるかという工夫を忘れないことです。教室に来るなり、何時に帰られるかを気にしてはよい練習、仕事はできませんね。

何をするのかと聞く前に自分から見つけ、探して効果を出すことです。やる気を出すには小さな目標から達成し、少しずつレベルアップしていきます。やり続ける気持ち、あきらめない根気力がよい結果を生みます。